

## 明るい未来創りの核は地域金融機関

「明るい未来創り」に入る前に、筆者の立ち位置を述べます。日本金融人材育成協会は、「全国の中小企業の企業価値の持続的な向上を支援する人材を育成する協会」です。同時に、お金の「借り手」である全国の中小企業を支援する中小企業基盤整備機構からは、「中小企業応援士」の委嘱を受け、日々、全国の中小企業を支援してきています。一方、お金の「貸し手」の幾つかの金融機関の取締役や信用金庫の理事など、直接、金融機関経営に関わっています。また、経営顧問を務めるマネジメントパートナーズは、リーマン・ショック直後に中小企業経営者の自殺が増え、中小企業支援に立ち上がった弁護士、中小企業診断士、税理士等が集って作った経営改善・承継支援の専門部隊です。

さらに、「借り手」と「貸し手」の「両者」に関わる中小企業診断士や、商工会議所・商工会・中央会の経営指導員向けには、全国に9カ所ある「中小企業大学校」の教育者として関わってきています。中小企業診断士や経営指導員の仲間が全国にいまして、中小企業支援の実務面で、日々、連絡を取り合っています。

お金の「借り手」と「貸し手」、その「両者」に理念のみならず実務面からも関わって

いまして、全体を俯瞰する公平中立な立ち位置から、「日本の明るい未来は、地域金融機関の伴走支援が“核”となって中小企業の笑顔が広がり地域経済エコシステムの好循環のループを構築していくことに尽きるのではないか」と思い、これを「共通価値の創造」（第1回参照）と称し、人生の全てを投じてきているところです。

### ◆「育む金融」の大切さ

「借り手」の中小企業団体とは、中小企業応援士として肌身を接する機会が多いです。ある代表理事から、「お金の借り手の立場は弱い。中小企業経営者は日夜、雇用を守り必死に本業に取り組んでいるが、金融の細かい点については理解していないことが多い。経営者の多くは、金融機関には伴走しながらの“育てる金融”（伴走支援型融資）を是非お願いしたい。」とのお言葉をいただいています。

コロナ禍を受け、マネジメントパートナーズでは、リスケ先や破綻懸念先・実質破綻先の経営改善支援に数多く取り組んでいます。こうしたケースでは、改めて事業デューデリを実施し、決算書を確認しますが、粉飾決算が明らかになることもあります。現場の実地調査と対話で3条件（誠実・やる気・キラッと光るものがある）の経営者（第10回参照）か否かを見極めます。その場合、粉飾に至った背景なども確認します。3条件の経営者が確認できると、地域金融機関を核に地域の関係者（商流を含む）の総力を結集し、持続的な営業キャッシュフローの改善を支援します。地域の再生・成長・笑顔の広がりを願ってやみません。出所：森俊彦『地域金融の未来』中央経済社、2020年、P2-3、P6-7、P20-21、P130-133、P164-165

